

【関東大震災から 100 年】震災を耐え抜いた 3 号館は今なお現役 —旧制高等学校時代の歴史的建造物—

武蔵大学（東京都練馬区／学長 高橋徳行）の正門を入ってすぐ、前方右手に悠々と構えている建物が 3 号館です。3 号館は 1923（大正 12）年に竣工し、同年発生した関東大震災を耐え抜いた都内でも珍しい建物です。合資会社清水組（清水建設株式会社の前身）の設計により 1923 年に旧制武蔵高等学校の校舎として建築されました。関東大震災の後、空襲、東日本大震災と度重なる天災、人災を経験しましたが、練馬区内に残る鉄筋コンクリート造の近代建築として最も古い建物であり、今もなお現役です。2016 年には第 25 回 BELCA 賞ロングライフ部門を受賞しました。アール・デコと呼ばれるデザインで、外壁の柱の凹凸や上部のジグザグ模様が特徴。映画やドラマの撮影にも使われています。普段は大学の教室や学生ラウンジ、また屋上ではミツバチを飼育するなど幅広い用途で使用されています。

9 月 1 日に関東大震災から 100 年の節目を迎える本年は、本学職員による練馬消防署自衛消防訓練審査会への参加や学内の防災訓練、また非常食をはじめとする防災備蓄品の整備等、今後も災害から学生等の命を守り、安全を確保できるよう、防災体制の取り組みに努めてまいります。



完成当時の 3 号館（1923 年）



現在の 3 号館

—報道関係者問い合わせ先—

武蔵大学 広報室 担当：増田・西（ますだ・にし）

TEL : 03-5984-3813 FAX : 03-5984-3727 E-mail : pubg-r@sec.musashi.ac.jp

■ 武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から4年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開設、キャンパス内留学の拠点とした。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えたこの年に、新学部となる国際教養学部を開設し、経済、人文、社会、国際教養の4学部9学科となった。

学長 高橋 徳行 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1

